



JASWHS 公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会

Japanese Association of Social Workers in Health Services

令和5年10月20日 第13巻(第2号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

巻頭言

一面の「秋」色をとどけて

1. グループ活動 【ミニミニ夏祭り】を開催して
2. 石巻だより 【第100回石巻川開き祭りと花火鑑賞会】
3. 震災遺構・大川小学校の語り部
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

編集後記

◇ 巻頭言

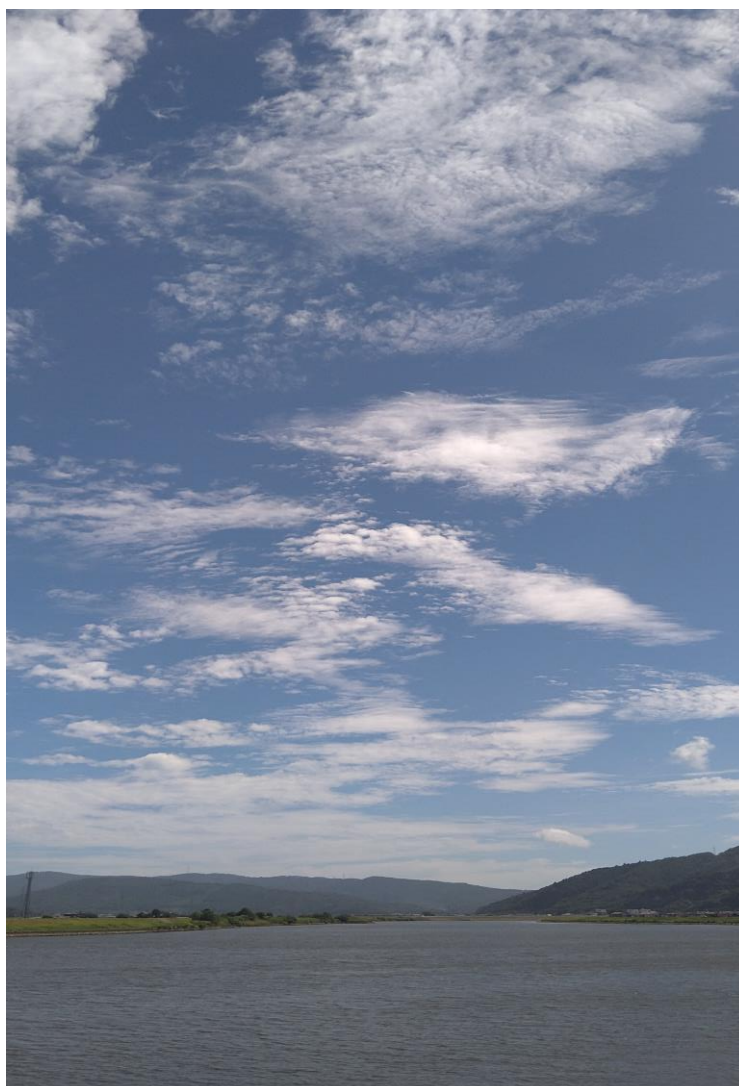
一面の「秋」色をとどけて

石巻災害支援チーム 現地責任者 福井 康江

今年度も半年が過ぎ、時間の速さに唯々気持ちが急ぐばかりの日々となっています。

対象者の方へ事業終了の報告をすることに心配や申し訳なさを感じていましたが、実際に話をしてみると、しっかり受け止めてくれた印象が残り、皆さんの力を感じると共に、自分たちの方が支えてもらっていたのかもしれないと改めて感じさせられました。

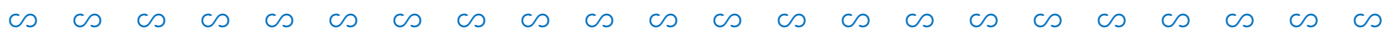
これからまた半年、実際に年度末が近づくに連れて、対象者の方や自分たち自身にも気持ちの変化があるのかもしれませんが、そのことも踏まえながら共に過ごせる時間を、ここに居られる時間を十分に惜しみながら過ごしてゆこうと思います。



北上川と秋空



実りの秋：河北地区の田園風景

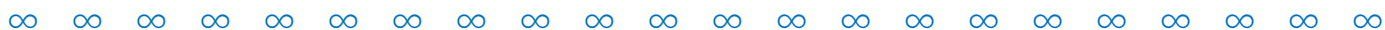


1. グループ活動【ミニミニ夏祭り】を開催して



～ 夏の名残のおたのしみ ～

石巻災害支援チーム 現地担当 岩崎 隼生



当協会が行っている男性独居のグループ(夢と希望の会)活動にて8月24日復興住宅集会場でミニミニ夏祭りを開催しました。

メンバーの方々と一緒に協力して、わたあめ・金魚すくい・くじ・おかし釣り・ポン菓子の準備を行い地域住民の方々の来場を迎えました。

どれくらい来場されるかは予想ができず、子ども達も来てくれるか不安でしたが総勢30名ほどの来場があり家族連れのかたも4組ほどいらっしゃいました。

メンバーの方々が地域住民の方とふれあい、子ども達とも



くじ

交流しながら普段見ることのないメンバーの方達の表情を見ることができたことはとても新鮮に感じました。

子ども達が綿あめづくりやポン菓子づくりなど、普段できない経験ができ、笑顔で喜んで帰る姿が見られました。住民の方々からも「ポン菓子が懐かしい」「甘くておいしい」「楽しい」などの声が聞かれました。

夕方には竹明かりの展示を行いました。

昼間のミニミニ夏祭りに参加された方や団地住民の方々も来られ、メンバーの皆と一緒に観賞しました。観賞された方からは「すごく綺麗」「見に来られて良かった」「また見たい」などの声が聞かれ、夏の良い思い出の1つになってもらえればと思いました。

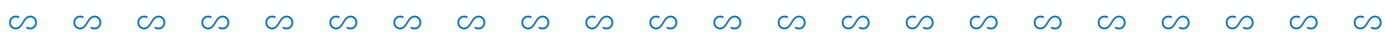


金魚すくい(おもちゃ)

コロナ禍で人との交流が難しくなっていた中で、今回メンバーの皆と一緒に地域住民の方と交流し、ふれあうことができ、地域とのつながりの大切さを感じられた会であったと思います。



竹明かり



2. 石巻だより



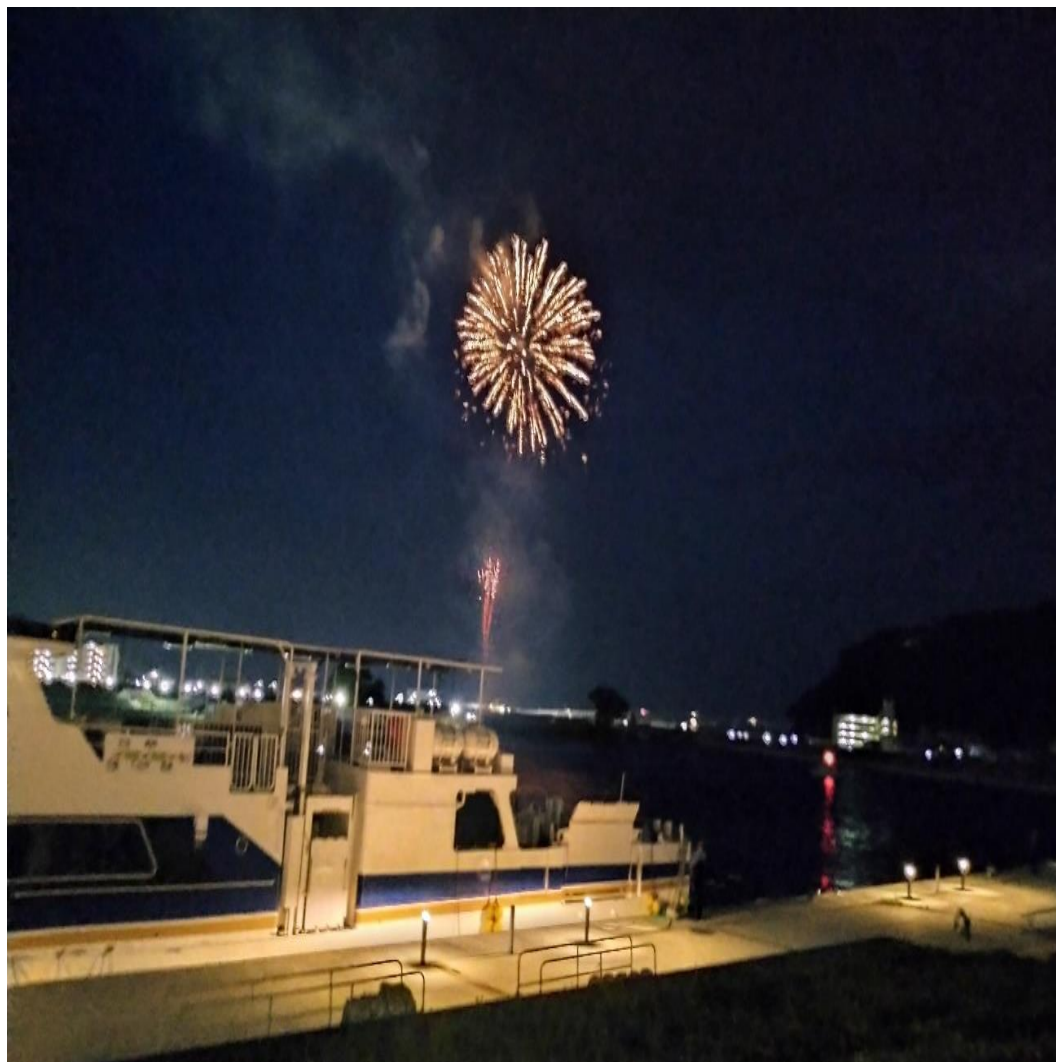
第100回石巻川開き祭りと花火鑑賞会

石巻災害支援チーム 現地担当 高橋 としみ



石巻市内最大のお祭りである「石巻川開き祭り」は本年第 100 回の節目を迎え 8 月 4 日から 6 日まで盛大に行われました。当協会のグループワーク活動として「夢と希望の会」では事務所にて花火の鑑賞会を開催しました。

第 100 回記念という事もあり、例年は 2 日間で行われるところ、3 日間にわたり行われました。初日の 8 月 4 日は重吉神社にて祭典、河村孫兵衛翁墓前供養祭、報恩供養祭、東日本大震災慰霊祭 13 回忌法要、流燈、前夜祭の花火も小時間ありました。(流燈は私たち事務所 3 人も申し込んでいましたので流されたはず)



(前夜祭花火 かわまち交流拠点中瀬付近)



(北上川の流燈)

8月5日は魚市場での大漁安全祈願祭、日和山に場所を移し、孫兵衛翁報恩祭、北上川では手漕ぎの孫兵衛船競漕、特別事業としてブルーインパルス展示飛行、東京ディズニーリゾート40周年スペシャルドローンショーは700機のドローンが描く光のショーでした。ディズニーのキャラクターが夜空に映りだされました。その後に花火大会です。最終日の8月6日は陸上に場所を移して、恒例の小学校の鼓笛隊パレード、中学校吹奏楽部、消防隊音楽隊の演奏等、夕方はクライマックスの大漁おどりがくり出されました。多くの皆さんが楽しまれたと思います。コロナも少しおちついて、記念の大会が開催されて本当に喜ばしく思います。

私たちが事務所から可愛いディズニーが見られました。花火も例年よりずっと豪華で綺麗であったと思います。花火が上がるたびに、皆さんが歓声をあげて喜びあいました。



東京ディズニーリゾート
40周年スペシャルドローンショー ～

ラプンツェルより～

「来年はどこでみようか・・・どうしようか」という言葉がでましたが・・・。その言葉には一抹の寂しさもありますが、花火をみんなで見たこの夜の事が皆さんの思い出の記憶に残りますように。出会いがあれば別れもある、笑顔でまた会える日もある、と私は思います。



開北橋下流より

3. 震災遺構・大川小学校の語り部

— 伝承のバトンを若い世代に —

石巻災害支援チーム 現地担当 高橋 としみ

先日、日本経済新聞に掲載された(大川小の語り部・大学生が担う)それによると、遺族の思いを学び、語り部活動をする学生の記事でした。現在は遺族が務めてきた語り部の一部を地元の学生が担う試みが始まった。遺族の思いや経験を学び、来訪者への案内役に立つ。地震発生からおよそ12年6か月。語り手の多様化を模索するなか、被災経験のない若い世代が教訓をつなぐ。(2023年9月9日付け日本経済新聞より)

現在、震災遺構大川小学校では(大川伝承の会)をたちあげた佐藤敏郎さんや鈴木典行さんが中心になって語り部活動をしています。語り部の依頼は年々増えて申し込みを断る事もあるとか。来訪者には震災後生まれた子どもの姿も目立つので「年が近い世代が話した方が受け止められやすいのでは」とも考えたそうです。そこでボランティアの手伝いなどで交流のあった東北大の「スクラム」に協力依頼、石巻専修大にも声をかけたそうです。簡単には想像できない情景や感情を自らの言葉でどう伝えるか。試行錯誤が続いています。

7月に佐藤敏郎さんなどの語りを学生の皆さんに聞いてもらう日が設けられました。学生たちは自主的な勉強会や伝承の会との打ち合わせを重ねて、9月10日に来訪者を案内する事になりました。大川小学校では、毎月定期ガイドの日があり、この日は無料で語り部の方のお話が聞けます。10日はちょうどその日でもありました。

午後の部を聞いた方に、後で感想をききますと、テキストの棒読みのようでまだまだ難しい・・・ということでした。人に話すという事はなかなか大変な事ですし、特に震災の語り部となりますと、なおさらです。自分の言葉にして話さないで聞く人に響かない。学生の皆さんには、これから何度も経験をして自分のものにして伝承をつないでほしいと思います。

佐藤敏郎さんの語りのなかに必ずでてくる「未来を拓くために」のフレーズ。「震災伝承は遺族や被災者だけのものではない。」と言い切る。「知らないということはたくさんを学ぶということ。そんな世代と一緒に新たな道を切り開きたい」と。大川小学校の場所で亡くなった、多くの人の無言の言葉を語り継いで未来の扉を拓いていってほしいものです。



大川小、大学生が語り継ぐ 遺族の思い学び案内役に

写真：2023年9月9日 日本経済新聞掲載



大川小、大学生が初の案内役 遺族の思い継ぐ

写真：2023年9月10日 日本経済新聞掲載

4. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』

の販売を行っています！



発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』に、2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。そして2017年5月、2014年4月から2016年3月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録を『バトンⅣ』にまとめました。

尚、売上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

お知らせ欄から注文用紙表示

https://www.jaswhs.or.jp/about/publish_index.php

注文用紙表示

https://www.jaswhs.or.jp/news/news_detail.php?@DB_ID@=1393

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回 第13巻（第3号）発行予定

令和5年1月

◇ 編集後記

石巻災害支援チーム 事務担当 金子 小夜子

10月になりました。世界中が異常気象に見舞われて、なんだか地球が壊れるのではと考えてしまいます。地球上のあちこちで山火事や台風、線状降水帯による甚大な被害が発生しました。また、同様に大地震が発生して多くの人々が被災している様子は2011年の大震災を思い起こさせます。

2011年から石巻市で被災地支援活動を続けてきた当協会の活動期間は、残り半年足らずとなりました。何度も現地に足を運び、助力して下さった多くのボランティアの方々に改めて感謝します。